みどりを育む
横造協だより

発　行　Vol.38
一般社団法人　横浜市造園協会
広報委員会
横浜市中区尾上町1-6　VORT 横浜関内Ⅱ７階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

よこはまフェアの成功からガーデンシティ・横浜の実現を目指して

横浜市長　林　文子

今年８月より、横浜市長として三期目の任期に臨ませていただいております。これまで横浜市造園協会はじめ皆様と築き上げてきた信頼関係を土台に、３７３万人の市民の皆様の暮らしを守り、横浜を将来にわたり成長させるために取り組んでいく決意です。どうぞよろしくお願いいたします。

よこはまフェアを終えて

さて、この春、３月25日から72日間にわたり開催した「第33回全国都市緑化よこはまフェア」は、想定を上回る６００万人以上のお客様を横浜市の内外からお迎えし、大成功のうちに幕を閉じました。

私も幾度となく会場を訪れましたが、絶え間なく咲き乱れる美しい花々に、いつも心を満たされました。ご来場いただいた方々からも、多くのお褒めの言葉を頂戴することができ、とても誇らしく思っております。

よこはまフェアでは、２つのメイン会場の特性に合わせて、工夫を凝らした演出を行いました。都心臨海部の「みなとガーデン」では、テーマフラワーであるサクラ、チューリップ、バラ等により、華やかで美しい横浜の街並みをお楽しみいただき、郊外部の「里山ガーデン」では、市内最大級の規模を誇る花畑や、広大な樹林地を活かしたアスレチックなど、これまで横浜にはなかった驚きと感動を味わっていただけたと思います。

そして、丁寧に花がらが摘まれ、芝生がきれいに刈り込まれているなど、いつも美しいおもてなしの状態が保たれていたことに、私自身、会場を訪れるたびに感動しました。緑や花が持つ力を発揮させる造園技術の素晴らしさ、そのスキルを磨きあげてこられた横浜の造園会社やボランティアの皆様に、心より感謝申し上げます。

よこはまフェアは、「ガーデンネックレス横浜２０１７」の愛称のとおり、「まち」、「人」、「時」をつなぎあわせ、多くの方々に横浜の新たな魅力をお見せすることができました。

これを一過性のものに終わらせることなく、横浜市造園協会の皆様をはじめとした関係者の皆様と連携し、花と緑を愛する心をしっかりと根付かせられるよう、引き続き取り組んでいきます。

みなとガーデン（港の見える丘公園）

里山ガーデン秋の大花壇

更にこの秋には、フェアで大変好評だった里山ガーデンを、コスモスやサルビア、マリーゴールドなどの秋らしい草花を組み合わせた「秋の大花壇」として10月22日まで一か月間公開し、多くのお客様にお楽しみいただきました。

よこはまフェアの広報親善大使・三上真史さんデザインによるウェルカムガーデンや、隣接するよこはま動物園ズーラシアのバードショーを大花壇でＰＲするなど、多彩なイベントも開催しました。

よこはまフェアや秋の大花壇の成功を足掛かりとし、里山ガーデンが、郊外部の観光拠点として歩み始めたことを実感しております。

里山ガーデン秋の大花壇

国際園芸博覧会へ向けて

今後、横浜市には、２０１９年ラグビーワールドカップ、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック、さらに国際園芸博覧会の招致と、国際都市としてのプレゼンスを世界に広める絶好の機会が次々に訪れます。特に国際園芸博覧会の招致は、上瀬谷を新たな郊外部の活性化拠点とし、よこはまフェアをステップとした花や緑あふれる横浜や、観光・ＭＩＣＥの取組を、より一層国内外にアピールすることにつながります。現在、有識者検討委員会でご審議いただいていますが、市民の皆様などからもご意見を伺いながら、横浜市としての基本構想案をとりまとめ、開催主体となる国に正式要請し、横浜の魅力・価値を一層高めていきたいと考えています。

これからの展望

よこはまフェアを通じて、花や緑が横浜を一段と輝かせることを実感するとともに、これから目指す横浜市の将来像の一つを、しっかりとイメージすることができました。

よこはまフェアの成果を継承・発展させ、市民・企業の皆様とともに、花と緑の魅力あふれる都市への歩みを着実に進め、国際園芸博覧会の開催など、ガーデンシティ・横浜として、世界の人々・企業を「惹きつける街」、「選ばれる街」の存在感を高めていきたいと考えています。

横浜市造園協会の皆様には、これまでの多大なるご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、今後ますのお力添えを、お願いいたします。

（写真左から）林市長・三上真史さん・ガーデンベア

かけがえのない環境を未来へ

環境創造局長　野村　宜彦

平成29年４月１日付で横浜市環境創造局長を拝命いたしました、野村宜彦でございます。

平成17年に当時の下水道局、緑政局、環境保全局の３局が統合しスタートを切った当局も、早12年が経過しました。水・緑・環境保全の環境行政を一元的に担当する組織は、国内のみならず世界に目を向けてもこの「環境創造局」しかなく、そのトップとして、改めて身の引き締まる思いをしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

横浜市造園協会の皆様におかれましては、日頃より、横浜市のみどり行政に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

今年は、これまで皆様とともに着実に取り組んできた本市の緑の取組が、大きく花開いた年になったと感じております。

今春開催された「第33回全国都市緑化よこはまフェア」では、横浜が色とりどりの美しい花や緑で満ちあふれ、市内外から多くのお客様にお越しいただき、街中が大いに賑わいました。よこはまフェアを終えて、花や緑には、横浜のポテンシャルをいっそう引き出し、新たな魅力を生み出す効果があることを確信いたしました。実際に、花や緑がまちの魅力や賑わいの創出、観光・ＭＩＣＥに大きく貢献し、さらにフェア開催を通じて、人々の花や緑に親しむ機運が高まったことが、来場者数調査やアンケート調査でも確認されました。

そして、10月22日まで公開された「里山ガーデン秋の大花壇」にも、よこはまフェアをお楽しみいただいたお客様をはじめ、多くの方々にご来場いただきました。秋らしい色彩の花々やグラス類を用いた空間演出により、お客様には、春のフェアとは一味違った新たな魅力とともに、多彩な技術力を実感していただけたと思います。

これらの成功もひとえに、皆様のたゆまぬ御尽力によるものです。会場整備から会期中の植栽管理、撤収に至るまで、長年に渡り様々な場面において、皆様より多大なる御支援をいただきましたことを、深く感謝申し上げます。

今後はフェアの成果も継承しながら、多くの方々が訪れる市街地や、生活に身近な住宅地などでの緑や花の創出、育成を進め、横浜市の緑の取組によりいっそう励んでまいります。横浜市造園協会の皆様におかれましても、ご一緒に「ガーデンシティ・横浜」の実現へむけて、引き続き豊富な御経験と技術力を存分に発揮していただきますよう、心よりお願い申し上げます。

横浜市造園協会 第40回 通常総会を開催

5月22日ホテル横浜ガーデンにおいて、第40回通常総会を開催した。左記議案について審議し、いずれも原案通りに承認された。

承認事項

第1号議案
平成28年度事業報告（案）の件
第2号議案
平成28年度決算報告（案）の件
第3号議案
平成29・30年度会費基準（案）の件
第4号議案
役員人事（案）の件

報告事項

第1号
平成29年度事業計画の件
第2号
平成29年度収支予算の件

退任役員
専務理事　萩原　博
理　事　浦野　修
監　事　荒井秀利
監　事　篠原友周

「ハマの緑を育むつどい」

総会終了後ご来賓をお迎えして「ハマの緑を育むつどい」を開催した。

ご祝辞は横浜市環境創造局長野村宜彦様・横浜市会議長松本研様・自由民主党横浜市支部連合会会長代行佐藤祐文様から、乾杯は横浜市副市長・平原敏英様にご発声をいただいた。

会長あいさつ

田澤会長

本日はお忙しいところ、このように多くの皆様に「ハマの緑を育むつどい」にご参会いただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど当協会の「第40回通常総会」が無事終了いたしましたこと、ご報告させていただきます。

今回の『よこはまフェア』の開催は、私ども横浜市の造園業界に大きな成果があったと考えております。まず、かつてない広域・大規模かつ短期の造園事業に地元として対応でき、自信につながったこと。

次に、新鮮な感性を盛り込んだ計画・デザインに沿った植栽・花壇作りに会社の枠を越え、仕事の魅力を再確認し、使命感・達成感を得ることが出来たこと。こうした機会を与えていただいた行政並びに市会の先生方をはじめとした関係者の皆様には感謝に堪えません。

さて、横浜市におかれては、旧上瀬谷通信施設において、国際園芸博覧会の招致を図るため、検討委員会の設置を進められております。私どもといたしましても、横浜市の『かけがいのない環境を未来に』を標榜する施策に最大限ご協力をさせていただきたいと考えるところであり、よろしくお願いしたいと存じます。

結びに、ご参会の皆様のご健勝をご祈念いたしますとともに、今後とも引き続きご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

市長メッセージ代読
環境創造局長　野村宜彦様

本日第40回の節目となる横浜市造園協会の通常総会が開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

皆様の多大なご支援により、「第33回全国都市緑化よこはまフェア」本当に多くのお客様がお越しになっていただきまして、大変素晴らしいお褒めの言葉を多数いただいております。

4月26日には秋篠宮殿下並びに妃殿下のご臨席を賜り、「全国都市緑化祭」を執り行いました。両殿下には美しい花と緑に彩られた横浜をお楽しみいただきました。

また、5月には第50回アジア開発銀行年次総会、そして世界トライアスロンシリーズ横浜大会が続けて開催されまして、世界中からお越しになった方々を満開の花と緑でお迎えすることができました。

野村局長

皆様とともに育み作り上げてきたこのハマの緑が、よこはまフェアを通しまして本当に多くの皆様に認知されご好評をいただいております。これまでの緑の取り組みに確かな手ごたえを感じています。皆様には、よこはまフェアをはじめ緑の育成、市政全般にご理解ご協力をいただいており改めて厚く御礼申し上げます。第2期横浜みどりアップ計画は4年目を迎えておりまして、目標達成に向けて各事業に着実に取り組んでおります。また、これまでの取り組みを振り返りつつ、今後の施策についても検討してまいります。

公園事業では身近な公園の整備や、小柴貯油施設跡地の公園など大規模な公園を継続して整備してまいります。また旧深谷通信所そして旧上瀬谷通信施設の土地利用につきましても引き続き検討を進めてまいります。よこはまフェアの成功をステップに旧上瀬谷通信施設への「国際園芸博覧会招致」の検討を進めていきます。

また今後も2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと、世界の注目が集まる機会が続きます。この絶好の機会を捉えよこはまフェアの取り組み成果を継承発展させ、世界の人々や企業を引き付けると共に市民の皆様の横浜に対する誇りが高まるような、緑豊かな美しい街横浜の実現に向けて取り組んで行きたいと考えております。皆様方の益々のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

結びに、横浜市造園協会の益々のご発展とご列席の皆様のご健勝ご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成29・30年度役員名簿

役職名	氏　名	事業所名
顧　問	藤巻 司郎	藤造園建設 株式会社
相談役	藤田 孝次	株式会社 三橋緑化興業
〃	生駒 隆一	生駒造園土木 株式会社
会　長	田澤 重幸	株式会社 田澤園
副会長	矢部　均	株式会社 三橋緑化興業
〃	土志田 淳	横浜庭苑 株式会社
専務理事	吉田 哲夫	事務局
理　事	望月 俊宏	有限会社 エムテックグリーン
〃	坂田　宏	株式会社 サカタのタネ
〃	田口 英明	田口園芸 株式会社
〃	永吉 克哲	株式会社 永吉緑化
〃	藤巻 慎司	藤造園建設 株式会社
〃	有吉 和夫	横浜植木 株式会社
〃	樋熊 浩明	横浜緑地 株式会社
〃	山田 裕之	株式会社 ワールドグリーンメンテナンス
監　事	石井 直樹	石井造園 株式会社
〃	吉田 直治	相武造園土木 株式会社

平成29年度 労働安全衛生大会を開催

7月31日ホテル横浜ガーデンにおいて「平成29年度労働安全衛生大会」を開催した。

横浜南労働基準監督署長、横浜市環境創造局みどりアップ推進担当理事はじめ幹部、道路局副局長はじめ幹部、各区土木事務所長の方々をご来賓にお迎えした。

労災ゼロ目指して

本年度も労働災害ゼロを目標として、安全標語入選者表彰（標語応募総数246）、優良工事現場表彰（サカタのタネ・田口園芸共同企業体）、安全宣言（一造園土木㈱小山田照蔵）を行い、岡部労働基準監督署長による「労働災害防止のポイント」についてのご講演をいただいた。

安全宣言を行う

岡部署長の講演

また建設業災害防止協会神奈川支部専任講師の山内祥嗣様を講師に迎え、「作業の安全」についてのご講演をいただいた。

入選標語《最優秀賞》

安全は任せず頼らず自分から、
互いに声掛け安全確認
みんなで目指すゼロ災害

一造園土木㈱　小山田照蔵

樹木に魅せられて（第33回）

花の命に魅せられて

株式会社サカタのタネ　遊佐（ゆさ） 明子（あきこ）

私の場合は樹木というより、花という命に魅せられて……でしょうか。

幼少時代は秋田で過ごし、その頃は両親が庭でHTバラやダリアを育て、いつも庭は花でいっぱいでした。玄関にも、何かしら花が生けてあったものです。私にとっては、まわりに花があるのが当たり前で、花より犬や動く生き物の方が大好きでした。

花は心の栄養

大学に進学して、農学科の中で昆虫・作物・花のいずれをやるか迷ったとき、母に「人のお腹を満たすために働くことも大切だけど、一輪の花に心を救われることもあるよ」と言われ、結局、花き研究室を選びました。人が生きていくために、衣食住が満たされることは必要です。しかし、人間が人間らしくあるために、美術や音楽など心を癒してくれる文化も、また、動植物や目に見えない微生物も含め、私達も自然の一部であることを忘れないということも大切だと思います。

納品業者と（里山ガーデンにて）

当社の社長、坂田宏は「花は心の栄養、野菜は体の栄養」というメッセージをよく使います。花というものは、花を育てる人、それを見る人、楽しむ人の心の中に、当人たちにしか分からない宝物を与えてくれるものだと私も思います。

大学卒業後は、花の種苗会社に勤めましたが、造園の仕事に関わるようになった契機は、趣味の英国庭園めぐりです。英国の名園をいくつか見て、歴史的背景を聞き、その場で体感するのは、まさに心の栄養でした。

特にベス・チャトーさんの庭は、涙が出るほど感動しました。まるで魔女の庭のようで、植物がただ生えているのではなく、どの角度から見ても美しいのです。植物の配置や植栽場所の的確さなど、人為的なものを感じるのですが、植物が借り物でなく、その場で生きていると強く訴えてくるのを感じるのです。

ベス・チャトーさんは夫のサポートもあり、世界中の園芸植物の原産地、適正栽培地のデータを集めた上に苗生産もしていて、植物に対して多くの知見を持っています。

水やりができない小石だらけの庭にどんなものを植えたらよいか、あるいは池の周りの湿地には……、というように実地試験もしています。日本の公園やガーデンでも、ぜひ多くの人の啓蒙のために、長い目で見た植栽計画を取り入れていただきたいものです。

今回、私は第33回全国都市緑化よこはまフェアの植物調達協議会の事務局をお手伝いすることになり、久しぶりに多くの植物を扱う機会に恵まれました。

会期は2017年3月25日～6月4日と、多くの植物の開花が楽しめる時期ですが、春先は霜や凍結の恐れもあります。また、近年は異常気象のため、思ったより開花が進んだり、逆に開花が遅れたりして、花がぴったりと咲きそろうようにするのは至難の技です。メインフラワーのサクラも会期に合わせ、遅咲きの品種もそろえました。実際には肝心のソメイヨシノの開花が遅れ、急遽ラップで包んで開花促進をしたり、裏でいろいろ工夫していただきました。

里山ガーデンのパンジー、ビオラも通常は秋植えする商品です。緑化フェアのため、2月の極寒期に納入することになり、JA横浜の生産者の皆さんには、徒長しない程度の加温で苗作り、さらに、納期直前に寒さに耐えられるよう慣らしをしていただき、無事に里山ガーデンのオープンを迎えることができました。

今回の緑化フェアは、生産者、納品者、施工業者がそれぞれ智恵と努力を結集した結果、会期中、絶え間なく花でいっぱいにすることができました。

近年、造園の分野でも、目新しい植物を求める風潮が強くなり、日本の風土に必ずしも適さない植物が植栽に使われる例が増えてきました。造園に関わる方も、ぜひ新しい植物の原産地を知り、花の声を聞いてください。花に寄り添うことで、花という命のパワーが必ず私たちを癒してくれると思います。

委託安全パトロールを実施

【目的】 更なる安全対策についての徹底を図るため、協会独自で安全対策強化期間を設け、この期間（8月1日～10日）に無告知でパトロールを行う。

【実施日】 8月2日

【点検対象】 市内全域の委託現場

【参加者】 安全委員会（9名）

【概要】

- 街路樹維持業務委託（都筑区・中区・金沢区）
- 公園維持業務委託（中区）

《優良箇所》

- 刈り払い機及びトリマー刃カバーの未使用時設置の励行
- 熱中症対策（備品）の充実
- 刈払い機使用時の飛散防止措置の工夫（ネットなど）

《指摘箇所》

- 作業（通勤）車両の現場内管理不足（許可証、輪止め、カギの管理、立入禁止措置）
- 消火設備の不備（消火器の使用期限切れ）

横浜市造園技術交流会　公園施設見学研修会を開催

【開催日】 4月27日

【行程】 ①里山ガーデン ②みなとガーデン（グランモール公園・横浜公園・山下公園・日本大通り）

【出席者】 横浜市造園技術交流会事務局（環境創造局）2名、当協会50名

【説明者】 環境創造局全国都市緑化フェア推進課大窪係長・大浦係長・各現場施工者及び維持管理者

今回の研修では、全国都市緑化フェア開催中の会場の視察を行いながら、計画・設計、施工、維持管理に携わる各担当者から、計画・設計の概要、施工・維持管理の注意点など業務の各工程における話を聞き、通常ではあまり見られない緑化手法や造園資材を使用した展示を見学、大規模なイベントにおける造園について様々な側面から学ぶことができた。

横浜市造園技術交流会「彼我庭園」にて竹垣研修会を実施

「第33回全国都市緑化よこはまフェア」の開催に合わせ、横浜公園日本庭園「彼我庭園」の再整備を行いました。その一環として「横浜マイスター」でもある大胡周一郎氏を講師に迎え、竹垣の改修を実施した。

金閣寺垣

《実施概要》

【日程】 4月13日、14日及び5月11日、12日（計4日間）

【講習場所】 横浜公園内日本庭園

【講習参加者】 （一社）横浜市造園協会会員の技術者110名、横浜市市職員66名

※今回の講習は一般の来園者にもご見学いただく。

【講習内容】 竹垣を改修し、新たに金閣寺垣、光悦寺垣、龍安寺垣などを設置

作業中

参加者の声

- 近年、竹垣の仕事が減っており、作る技術を持つ職人も減っている。昔はお寺で垣根の仕事を多くもらったが、それもかなり減ってきている。技術力を維持するには継続的に作り続けることが必要。
- 竹垣を施工する様子を初めて見た。竹の籾洗い等、少しでも施工に参加できてよかった。

横浜市環境創造局平成29年度予算概要等説明会の開催

【開催日】 3月29日

【研修内容】

- 公園緑地をめぐる最近の動向（課題）
- 環境創造局予算概要説明
- 全国都市緑化よこはまフェア・樹林地維持管理助成事業等・指定管理

【講師】

- 横浜市環境創造局
- 上原みどりアップ推進担当理事
- 五十嵐全国都市緑化フェア推進担当部長他

第33回全国都市緑化よこはまフェアにおける公民連携事業

公益財団法人横浜市緑の協会
総務部長　新堀　嘉代子

平成29年3月25日（土）から6月4日（日）まで、横浜で行われた「第33回全国都市緑化よこはまフェア」は、期間中の来場者が600万人を超え、フェアの愛称「ガーデンネックレス2017」に込められた花と緑が〝街を　人を　時を〟見事につないでくれました。フェアの実施にあたって様々な取組みがなされるなか、運営自治体（主催者）である横浜市、そして市民、企業、事業者等多くの皆様がフェア開催の成功に向かって、一体となって取組む公民連携による事業が数多く行われました。公民の連携の一例として、相模鉄道株式会社や京浜急行電鉄株式会社は、横浜市と連携しフェアのPRのため車内広告の掲示、車両の装飾などを行い、多くの人の目を引きました。

フェア開催を契機として2年前に誘致した全国的なイベント「2017日本フラワー&ガーデンショウ」では、会場内でフェアの展示ブースやワークショップ等を行い、イベントを盛り上げると同時にフェアを盛り上げ、PRする取組みが行われました。

毎年4月に行われている恒例の「第39回よこはま花と緑のスプリングフェア2017」は、当協会が横浜市、市民、企業、事業者等と連携し、フェアの連携イベントと位置付け開催しました。市民の手で植えられた約16万本のチューリップが華やかに彩る中、フェア公式グッズの販売や記念イベント等を実施し、フェアの盛り上げに協力しました。

カウントダウンボード除幕式

当協会が横浜市と連携した取組みとしては、横浜市（6区＋3動物園）と協力し、市民へのフェア開催の周知、PRのためフェア開幕200日前から開幕までをカウントダウンするカウントダウンボードを（一社）横浜市造園協会と横浜市グリーン事業協同組合に協賛いただき設置し、除幕式を市内9か所で行いました。

また里山ガーデン会場に隣接するよこはま動物園ズーラシアでは、フェアの開幕に合わせて花スポットを園内各所に設置しました。里山ガーデン会場だけでなく会場のある地域全体を楽しむことが出来ればと考えて実施した取り組みです。

今回紹介した以外にも様々な形でフェアに関する公民連携の取組みが行われましたが、こうした大きなイベントに限らず、地域活性化、緑化推進など様々な取組の中で公民連携は行われています。

現在、横浜市では2026年の国際園芸博覧会開催に向けて動き出しています。こうした動きも踏まえ、今後も横浜市、市民、企業、事業者等それぞれの経験・知恵・技術等の力を活かし、様々な場面で連携することにより相乗効果を生む取組みを行っていくことが重要です。当協会は緑化の普及啓発、支援など緑化の推進の役割を担っている公益財団法人として一翼を担っていきたいと考えています。

日本大通り

第34回全国都市緑化はちおうじフェアに花壇出展

9月16日から10月15日まで開催された「第34回全国都市緑化はちおうじフェア」で、横浜市が出展する花壇の施工を行った。

桑都とYOKOHAMAをつなぐ絹の道

開港と共に貿易が盛んになった横浜と、養蚕や織物が盛んで「桑都」と呼ばれた八王子は、絹の道でつながっていた。

このつながった2つの都市をイメージし、横浜の庭園を代表する三溪園の聴秋閣とバラ、八王子の木、花であるイチョウ、ヤマユリを融合させ、次世代につなげる都市と環境が調和した豊かな庭を表現した。

㈱貝塚造園施工

2017　日本フラワー&ガーデンショウ花と緑の職業体験コーナー「造園屋さん」

日本家庭園芸普及協会主催の2017日本フラワー&ガーデンショウが4月1日～3日の3日間、パシフィコ横浜にて開催された。このショウにおける子供向けの体験型イベント「花と緑の職業体験」の「造園屋さん」コーナーに当協会が出展し、延べ1132人の子供たちに「造園屋さんの仕事の魅力」を伝えた。子供たちは、造園の仕事内容などの説明を聞いたり、ヒノキの枡にミニ箱庭を作る体験をした。

ミニ庭園製作

横浜市グリーン事業協同組合に共催いただき、ミニブース出展で「はまっ子ユーキ」をPRした。

第33回全国都市緑化よこはまフェア　企業出展コンテストで㈱貝塚造園が「国土交通省大臣賞」を受賞

国土交通省大臣賞

横浜市会議長賞

第33回全国都市緑化よこはまフェア（3月25日～6月4日開催）で、もてなしの庭（象の鼻パーク）に企業出展した㈱貝塚造園が最優秀賞の「国土交通省大臣賞」また、㈱植勘が「横浜市会議長賞」を受賞した。

「瀬谷道路祭り2017」出展協力

8月18日、相鉄線瀬谷駅北口広場に於いて恒例の瀬谷土木事務所主催「瀬谷道路祭り2017」に、当協会瀬谷区の会員6社が出展協力をした。

開催趣旨

1920（大正9）年8月10日に日本で最初の道路整備計画が実施されたことに由来し、国土交通省が1986年に8月10日を「道の日」と制定したことを受け、道路啓発のイベントとして瀬谷土木事務所（近藤所長）が中心となって毎年実施している。

道路とともに暮らしを支える各関係団体や企業が多数出展する中、当協会においては暮らしや災害時に大きな役割を果たす私たち造園の仕事を紹介するとともに、当協会の紹介及びPR・花と緑の街づくりに関する啓発等を図った。

- パネル展示「道路に携わる造園の仕事」他
- はまっ子ユーキ・ズーラシアうちわ等無料配布

瀬谷道路祭り

吉田哲夫氏が専務理事に就任

本年7月2日より専務理事に就任いたしました吉田です。

略歴にも記載いたしましたが、私は昭和49年4月に横浜市役所に採用され、37年1ヶ月（東日本大震災により定年延長）、その後（公財）横浜市緑の協会に6年2ヶ月（第33回全国都市緑化よこはまフェアによる延長）後、（一社）横浜市造園協会でお世話になることになりました。

役所、外郭団体経験43年間のうち、横浜市住宅供給公社の2年・都筑区役所の2年・都合4年間だけ公園緑地に携わっておりませんが、公社の時には協同組合の勉強をさせてもらいましたし、区役所のときは協会の皆さんに多大な区民祭り協賛を頂き大成功に終わることができました。ありがとうございました。

造園協会専務理事に就任し、理事会・委員会等で似た面影の方々に会います。聞きますと皆さん、息子さんとのこと。二世への世代交代が進んでいます。

若いエネルギーを集め横浜での国際園芸博覧会の開催に寄与したいとおもいます。

略歴

昭和49年横浜市緑政局計画課入庁・56年中部公園緑地事務所施設係長・平成5年都市計画局課長・15年緑政局公園部長・20年環境創造局みどりアップ推進担当理事・21年都筑区長・23年5月から28年6月まで（公財）横浜市緑の協会理事長に在職。

訃報

村田竹生氏（9月27日）享年82
（有）緑生園
前代表取締役
ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます